

ティーチング・ステートメント

所属 工学部都市環境学科
名前 石田 眞二
作成日 2021年3月9日

【責任】

工学部都市環境学科に所属し、主に専門科目である都市計画や地域計画を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、専門科目（景観工学・都市計画・CAD 演習・設計演習など）の実務に近い実践型の科目を担当、ゼミ生の卒業研究指導、その他、大学改革推進室長、副学長を務めている。

【理念】

都市環境学科の学びは、人々の安心・安全・快適な暮らしを守るための社会基盤を構築するために必要な知識と技術を習得します。学びの対象となる構造物も多様であり、さらに調査・計画・設計・施工・維持管理に関わる多くの職業へとつながっている。その中で、学生には、自分で選択し、目指そうとしている職業に対し、楽しくやりがいを持って仕事ができるように多くの知識や技術を身に付け、広い視野を持った強い人間に成長してほしい。そのためには、努力の積み重ねや考えること（アイデアや発想）の継続性の大切さを伝え、多く人が支えあって安心・安全な社会が実現できていることを理解し、他人の気持ちがわかる技術者としての育成を手助けしたい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、想像力を活かし、考えることの楽しさや自分の想いを可視化する作業に重点を置いた教育をしている。

また、常に将来と学びをつなげ、学生が習得しようとしている知識や技術が実社会でどのように役立ち、活用されているかを伝え、納得して講義を受講できる姿勢づくりに努めている。

「自分の考えの可視化の重要性と取り組み」

・自分の考えを可視化する作業を教材づくりで体現し、学生のその重要性を理解してもらう。そのために、教材は、極力文章を少なくし、図やフロー、写真を多用した資料作成に注力している。加えて、教科書通りではなく、重要なポイントと実例を併せて表現した資料作成を心がけている。

・表現力やコミュニケーション力を高めるためにアイデアや発想を活かし製作する課題（地域計画図や景観資源図など）の作成を行い、自分の考えを形にする作業とそれを言葉にして表現するプレゼンテーションを併せて実施している。

「将来と学びをつなげる工夫と取り組み」

・実社会での活動を経て策定されている下記に示すような計画書の実例を挙げ、策定の目的や策定プロセスについて時間をかけ説明するように心がけている。

（札幌市交通バリアフリー基本構想、石狩市自転車活用推進計画、小樽市交通バリアフリー基本構想、小樽市公共交通活性化基本計画、岩見沢市都市計画マスタープラン、留萌地域活性化計画、紋別地域協働型道路マネジメントなど）

・CAD や設計演習では、仮想のデータではなく、下記に示すような実際に設計されたフィールドの図面を利用し、設計図面の作成にあたり、より、臨場感と職業観を感じられる作業の経験を積んでもらう。（国道230号線電線共同溝詳細設計図面一式など）

・卒業研究におけるテーマ設定には、必ず、実データを取得するため、フィールド調査を多用し、より仕事に近い活動を体験しながら、外部企業と学生が接触し、連携を図り研究を遂行できる体制づくりに努めている。

【成果・評価】

・都市計画の講義を受講し、まちづくりに興味を持ったゼミ志望者が増加した。

- ・ CAD の講義を受け、図面を描く楽しさを実感した学生の声が届いた。
- ・ 卒業研究の取り組みについて、フィールド調査に興味をもつ学生が増加した。

【目標】

「継続する長期的な目標」

- ・ 学外における役職（各種委員，学会活動，都市計画審議会）を引き続き務め，社会の最新情報と抱えている課題やその解決策に関する動きを敏感に察知し，学びへ反映する。
- ・ 社会活動（共同研究，委託研究）を通じて，企業とのつながりや接点を強化し，これからの社会に必要な人材や能力について探り，さらなる教育の改革につなげる。

「早期着手を目指した短期目標」

- ・ 同分野のみならず，異分野の研究者とも横断的な研究推進体制を構築し，その遂行や成果を学生と共有していくように心がける。
- ・ 学生の多様性や個性を評価するためにルーブリックを活用した評価方法の導入を検討する。